

S U A 講義配信

2007年10月から11月にかけて、創価教育研究所の3名が、アメリカ創価大学（S U A）の学生ならびに教職員を対象として、遠隔会議システムを用いた講義をおこなった。

この講義は、S U Aのフィーゼル教務部長が6月から7月にかけて来学していたおりに種々議論を行い、実現の方向に動き出したものである。具体的には、9月に入りS U A側はヘフロン学生部長が担当して下さり、主に「創価教育研究会」の学生を中心にした自主講義の形で実施された。S U A側は、夕食終了後の時間帯で自由参加であった。

リアルタイムでの講義のため、講師は日本語で話し、それを通訳する形態をとった。講義時間は約30分で、通訳もまた30分。講義終了後に約30分の質疑応答をおこなった。

遠隔会議システムで、日本の創価大学とアメリカのS U Aを結ぶ講義は初めての試みでもあり、実験的試行としては大成功であったといえる。機械システムは、何らの問題もなくうまく働いてくれた。ただ、画像が送信されるわけであるが、その画像をより鮮明に、より美しく見せるためには、証明の問題等、今後いくつかの工夫が必要である。また、講義に関しても文化の違いや、S U Aサイドの求めるものと日本側の発信内容の合致、通訳の問題など今後の検討課題が明らかになった。

ここに掲げたものは、この3回の講義の際にS U Aで配られた資料である。回を重ねるごとに、内容が詳細になっていったのは、講義前に電話回線でスタッフ同士が議論を重ねた成果であるといえよう。今後は、共々に協力し合い、より良い「創価教育」学習の場としていきたいと思う。

（文責 神立孝一）